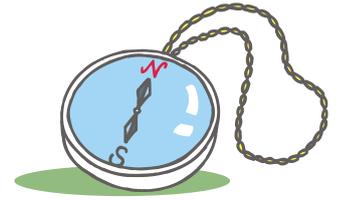


羅 針 盤

第 4 号

令和5年5月1日（月）



◆ 「挨拶」をすることの意味

今日から5月です。衣替えの季節となりました。家庭訪問も本日が最終日となりましたが、生徒の皆さんは明後日から始まる大型連休（ゴールデンウィーク）を何よりも楽しみにしているのではないのでしょうか。計画だてた有意義な休日を過ごすことができるよう、そして、何よりも事故や怪我がないように、中学生としての自覚を忘れずに充実した時間を過ごしてもらいたいと思います。さて、皆さんは始業式の日にお話ししたことをしっかりと覚えていますか。また、その言葉通りに日々の学校生活を過ごすことができてきましたか。始業式の日にお話しした校長講話。それは、生徒の皆さん一人ひとりに自主・自立の確立に向けて心掛けてほしいこととして、『あ・ひ・る』が実行できる人になりましょうということでした。挨拶ができる人に、人の話を素直に聴くことができる人に、そして、ルール（きまり）を守ることができる人になってほしいというお話をしました。その一つ目の「挨拶」について、朝、学校に登校してきたときに、大きな声で「おはようございます」と挨拶できているでしょうか。「おはようございます」と元気よく声をかけられて、「おはようございます」と返すといっただけのことで、今日この一日もまた頑張ろう、何か楽しい出来事が待っているはずと考えて、ワクワクした気持ちで日々の学校生活を過ごしてくれたら何よりも素晴らしいことではないかと思わずにはいられません。「おはようございます」の一声が、たくさんの勇気とやる気を与えてくれるのではないのでしょうか。「親しき中にも礼儀あり」という言葉を皆さんも聞いたことがあるでしょう。礼儀の根底には人間尊重の精神があり、礼儀正しく接することは相手を一人の人間として大切にしているということの証（あかし）であるはずです。礼儀正しくすることのまずは第一歩が「挨拶」であることは、皆さんにもよく理解できることのはずです。「挨拶」それは、人と人とをつなぐ架け橋であり、相手の心に自分の思いを届けることができる行為です。「挨拶」の頭文字をとって、「明るく、いつも、先に、続けて」と言われることがあります。「挨拶」は日頃の実践が欠かせないものです。大きな声で、爽やかな「挨拶」を、いつも心がけてほしいと思います。

◆ 世界のあるべき姿を語り合う

2025年に大阪・関西万博が開催されます。その万博では、世界中の人々が世界のあるべき姿を語り合い、メッセージを発信する場になるべきだと、世界でも有数のマエストロである佐渡裕（さどゆたか）さんは言います。彼が指揮する楽団には、ウクライナ人の団員がいて、その団員の街が破壊されたという現実決して見過ごすことはできないと。だからこそ、世界中の人々が集まる万博で、世界が進むべき方向性を皆で考える貴重な機会とすべきではないかと彼は考えるのです。また、世界中の人たちが集まる中でこそ、音楽を通じて思いを伝えることができるはずだと。そして、それこそが万博開催の大切な意義であるべきはずではないだろうかと思っています。世界中の人々が集まる中で「世界のあるべき姿を語り合う」という言葉の意味をこの機会にしっかりと考えてもらえたらと思います。

